

「母子」と「中学生」とのふれ愛

赤ちゃんふれあい会



▲オムツ交換に挑戦 (名和中)

大山町では、1歳までの赤ちゃんとその保護者を対象に、中学生との赤ちゃんふれあい会を行っています。思春期まっただ中の中学生が赤ちゃんとふれあうことで、中学生には命の大切さを考えるきっかけになったり、赤ちゃんの保護者には赤ちゃんの将来をイメージすることができ、子育てへの励みにつながるのではないかと考えています。

大山中、中山中に次いで、名和中学校でも今年度から赤ちゃんふれあい会をスタートしましたので紹介します。



▲赤ちゃんと絵本の世界へ (大山中)

名和中学校初の赤ちゃんふれあい会を、6月21日(火)に行いました。

学校では、子育て支援アドバイザーの松本寿栄子さんの指導で事前学習を行うなど、準備を重ねて当日を迎えました。初めての体験に生徒たちも教職員も、どきどきしながら生後1か月からもうすぐ1歳になる赤ちゃんとお母さん15組を迎えて交流会が始まりました。

生徒たちは月齢による赤ちゃんの大きさの違いに目を見張っていました。グループに分かれての自己紹介では、赤ちゃんに自分の気持ちが伝



▲ほ乳びんで授乳体験 (中山中)

わるのか心配し、泣き出す赤ちゃんに困ったような顔をする生徒もいました。しかし、時間がたつにつれて緊張も解け、不安そうにしていた生徒も、赤ちゃんに触れ、抱くことができるようになるなど、普段の生活では見ることのできない一面も見られました。

生徒の感想の中には「緊張して疲れた」という声もありました。心地よい緊張感と、無事やり遂げたという満足感を味わうことができた有意義な体験でした。

中山中学校では、地域の一人として自然を守り育てようと、全校生徒が卒業までの3年間、校舎周辺の学枝林の幼木の中から自分の木を決めて幹の太さを測り、除草し成長を見守る一人一本活動を行っています。

6月13日(月)の午後、2年生はグラウンド斜面の、3年生は特別教室棟裏の各自が管理している木の成長を記録し、下草刈りを行いました。1年生は、昨年度卒業生の木を受け継ぎました。また今年は、大山カレッジの近藤校長と受講生4人も活動に参加。梅雨の合間の作業でしたが、全員の力を合わせて学枝林がきれいになりました。

自然を守り育てる 一人一本活動



▲全校で下草刈り作業